

「協働研究」報告書

2024 年 10 月 10 日

1. 基本情報

研究代表者 氏名: 松田 陽	所属部局: 人文社会系研究科
題目(和文・英文) (和文) アジアの都市におけるノスタルジアの表出と文化遺産の創出 (英文) Nostalgia and heritage-making in Asian cities	
概要 2021 年度の HMC ヒューマニティーズリエゾン部門の研究プロジェクト「アジアの未来」ならびに HMC/LUI の公募研究(A)「アジアの都市空間における郷愁の表出と文化遺産の創出: 東京とシンガポールの事例を中心に」を継承・発展させるべく、本協働研究では、今日のアジアの都市空間において過ぎ去った時代に対するノスタルジアが有形・無形の文化遺産の創出を通していかに表出されているかを多角的に考察した。 ノスタルジア研究およびアジア都市研究の動向を精査した上で、全州市(韓国)、群山市(韓国)、上海市(中国)にみられる過去の懐古・追慕・理想化の様態、そしてノスタルジアを核とした社会的・商業的活動の展開状況を、東京との比較を通して精査した。2024 年 2 月と 7 月にはそれぞれ韓国と中国から研究者を東京に招聘し、フィールドワークを交えたワークショップならびに研究会を開催した。本学の博士課程大学院生にも積極的に関与してもらい、彼らの研究交流経験の蓄積やネットワーク形成を支援した。本協働研究の内容は研究代表者が実施する授業にて積極的にとりあげ、東京大学の教育活動とも接続させた。	

2. 研究分担者

研究分担者	所属機関・職位
菅 豊	東洋文化研究所・教授
研究分担者	所属機関・職位
本田 洋	人文社会系研究科・教授
研究分担者	所属機関・職位
祐成 保志	人文社会系研究科・准教授
研究分担者	所属機関・職位
和田 真生	ヒューマニティーズセンター・特任研究員
研究分担者	所属機関・職位
祝世潔	ヒューマニティーズセンター・特任研究員
研究分担者	所属機関・職位
雷婷	総合文化研究科・博士課程大学院生
研究分担者	所属機関・職位
鄺夢茜	総合文化研究科・博士課程大学院生
研究分担者	所属機関・職位
LEE Kah Hui(リー・カーフイ)	人文社会系研究科・博士課程大学院生
研究分担者	所属機関・職位
強谷 幸平	人文社会系研究科・博士課程大学院生
研究分担者	所属機関・職位
青木 蘭	人文社会系研究科・博士課程大学院生

3. 研究成果

【書籍】なし

【論文】なし

【関連口頭発表】

- 口頭発表(松田陽)、国際日本文化研究センター所長主宰研究会「文化遺産学の再構築」、「文化遺産の拡大と液状化:文化遺産学はどこへ行く」、2022.8
- 講演(松田陽)、天津大学建築学院、「A Reconsideration of Heritage Reconstruction」、2022.10

【その他】

- [HMC ウェブサイト](#)上での研究動画「東京ノスタルジア考察」の公開
- HMC ウェブサイト上での研究会「韓国の都市におけるノスタルジアの表出と文化遺産の創出」の[レポート](#) (執筆:安井恵美子)、研究会「上海 —ノスタルジアの表出と文化遺産の創出—」のレポート[前編](#)・[後編](#) (執筆:強谷幸平)の公開

4. 今後の研究の展望

本協働研究を通して得られた成果の一つは、ノスタルジア研究の最新動向を把握・整理できたことである。ノスタルジアは退行的であり、過去を美化するニセモノであり、帝国主義的にもなるという理由から、かつては学術的裏付けのある文化遺産とは無縁のものとして捉えられてきた。しかし、なぜ現代社会に暮らす人々がそもそも過去を懐古するのかに意識を向けると、文化遺産の形成を惹起する要因としてのノスタルジアの可能性が新たに浮かび上がってくる。その可能性を探究する方向性はいくつもあるだろうが、本研究を通して、都市空間の利用に着目する意義を明らかにすることができた。とりわけ、開発事業が至る所で行われるがゆえに街並みや建造物が恒常的に変化すると考えられがちなアジアの都市において、ノスタルジアの表出と文化遺産の創出を考査する意義は大きい。本研究では東京、上海、全州、群山という都市を事例にして考察を進めたが、今後はアジアの他都市におけるノスタルジアと文化遺産の諸様相を探ることによって、ノスタルジア研究や都市史研究、そしてさらに都市論の進展に貢献できると考える。